



令和6年7月16日(火) 曇 No. 3



▲会長挨拶



▲クラブ協議会司会の山本幹事

会長の時間

会長 大庫 隆夫

第三回 「平相国清盛、太閤秀吉、天下取りは播磨から」

平相国清盛卿は安芸守、播磨守を歴任、瀬戸内海交易を手に入れ、莫大な財を得ました。日宋貿易によって財政基盤の開拓を行い、宋銭を日本国内で流通させ通貨経済の基礎を築き、日本初の武家政権を打ち立てたのです。すなわち清盛卿は大変な経済通だったのです。

羽柴秀吉は織田信長公に取り立てられ、対毛利家方面軍司令官として播磨国但馬国を治めたことにより莫大な財を得ました。信長公は堺を手に入れたことにより財を成していました。それを見ていた秀吉公は大変な経済通であったのです。信長公没後、莫大な経済力を背景に瞬く間に天下を手に入れました。

播磨を治めた清盛卿、秀吉公らお二方は後に天下人になりました。播磨の国は瀬戸内に臨み陸海路の東西交易を押さえています。塩、米、漁業など物成りが良く、生野銀山もあります。播磨一国を治めることは天下人への特急券を持つことに等しかったのです。

そのことを分かっていた徳川家康公と幕府は播磨国を細かく分割して諸大名家、旗本家へ分与しました。

大名家だけでも十藩、旗本領、国外の飛地もありました。最大の姫路藩でさえ十五万石、明石藩六万石、龍野藩五万石、赤穂藩五万石、小野の一柳家は僅か一万石でした。もちろん生野銀山は天領としました。

それほど江戸幕府は播磨を恐れていたのです。これが播磨人のわしがわしがの島国根性の因かもです。

前の明石市長さんが明石は別格や加古川や高砂と一緒にするなどと言われたと仄聞しましたが、明石はれっきとした播磨の国なのです。ちなみに垂水までは播磨の国であり摂津ではありません。

現代の播磨国は工業出荷額では県下最大であり、国内でも有数のGDPを誇るエリアです。

皆さん天下人を二人も輩出した播磨の住民であることを誇りに思いましょう。

幹事報告

- 1) ☆他クラブニュース
例会変更のお知らせ
明石 RC
◇ 7月24日(水)→休会[定款第7条第1節(d)]
◇ 8月14日(水)→休会[定款第7条第1節(d)]
◇ 8月21日(水)→24日(土)17:00～ 納涼家族例会
於;ZAZAZA大蔵海岸
◇ 9月18日(水)→休会[定款第7条第1節(d)]
◇10月30日(水)→休会[定款第7条第1節(d)]
- 2) BOX にハイライトよねやまを入れております。
- 3) 次週7月18日(火)は公式訪問です。A テーブルメンバーはジャケットネクタイ着用させていただきますが、会員の皆様におかれましてはクールビズの服装で結構です。よろしくお願いいたします。

ニコニコ



- 省 略 ☺ クラブ協議会、各委員長さんよろしくお願いいたします。
- 省 略 ☺ 兵庫県政が心配です。これから色々な事が起るのでしょうか？
- 省 略 ☺ 本日、クラブ協議会よろしくお願いいたします。
- 省 略 ☺ 100米ドル買うのに20年前の7月発行のお札では10,800円、今回の新札では16,000円。3種類使っても手数料が足りない。総理、財務大臣の無策の成果かな!!弱い日本国、困るよね!!
- 省 略 ☺ 新札ニセ札対策すばらしい!! だけど地下経済の人達、弱い日銀券コピーしないよ!!
- 省 略 ☺ テーブルの花いただきます。

ニコニコ パートII リクエスト&アンサー

本日はありません。

以上6件 ¥11,000-
本年度累計¥268,000-

出席委員会

☆ 今 週 会員数 75名 出席 52名 出席免除 12名 欠席 11名
☆ 欠 席 者 省 略

☆ 前 々 週 会員数 75名 出席 61名 出席免除 8名 欠席 6名

親睦活動委員会

例会場当番

7月23日(火) 藤本陽・橋本眞

8月 1日(木) 長谷川吉・橋本直



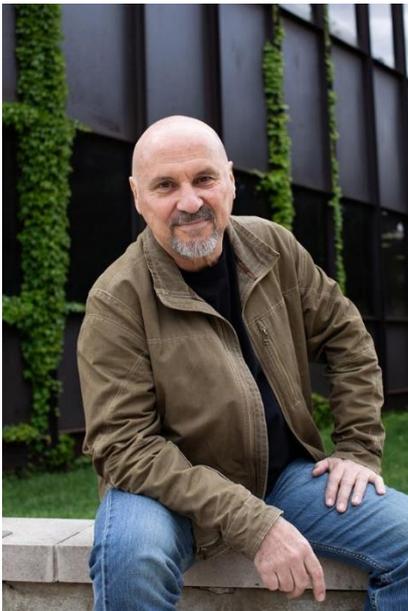
プログラム委員会

本日7月16日(火)	7月23日(火)	7月30日(火)	8月6日(火)
クラブ協議会	ガバナー 公式訪問	例会変更(日時場所変更) 納涼例会 8月1日(木)午後6時～ 於;みとろの丘 カムズレストラン 親睦活動委員会担当	新会員 自己紹介 漣・松崎誠担当

ポリオを追跡した 18 年を写真家が振り返る

世界のポリオ根絶活動を記録した展示

文: Etelka Lehoczky



ジャン・マーク・ジブーさん
写真提供: Monika Lozinska

5月29日までシカゴ・フォトジャーナリズム・センターで行われた「Chasing Polio (ポリオを追跡して)」をテーマとする展示で、18年間の歴史が紹介されました。写真家のジャン・マーク・ジブーさんは、ポリオがもたらす影響やポリオとのさまざまな闘いを記録するため、17カ国を訪れました。自身が気に入っている写真、最も苦労が多かった旅、ロータリー会員による支援などについて、ジブーさんにお話を伺いました。

Q:ポリオ根絶活動の写真を撮ることに関心を持ったきっかけは何ですか。

A:1997年、私は21世紀に突入することについて優れた題材を探していました。シカゴ・トリビューン紙に掲載されたロータリーとポリオ根絶活動についての記事を見て、ロータリーに電話をかけました。「(ポリオについての)ストーリーを題材に写真を撮影したいが、どうしたらいいか」と尋ねました。長いこと話し合い、最終的にロータリー財団からこの撮

影のための補助金をいただくことができました。翌年、写真は『Life』誌に掲載され、その1週間後、世界保健機関からシエラレオネに行きたいかという連絡を受けました。これが18年間の旅路の始まりになろうとは夢にも思っていませんでした。

Q:国によって撮影の難しさが異なりますか。

A:インドは25年間も訪れているので、気楽に仕事ができます。どこに行けばいいかも分かりますし、インドの人たちは写真を撮られることにあまり抵抗がないようです。25年間で10回は訪れています。アフガニスタンとパキスタンはもっと困難でした。アフガニスタンでは通訳者が必要ですし、治安という点でも難しさがあります。

Q:一般的に、ポリオ根絶活動を撮影することは難しいですか。

A:ポリオの予防接種活動を撮影した経験は、全般的に非常に好ましいものでした。貧困や戦争がある場所に出向いていく中で、ただ誰かを助けたいと願う人たちと一緒に活動できました。どこに行っても、みんなが好意的に受け入れてくれました。

Q:この展示で気に入っている写真はどれですか。

A:シエラレオネの障がい児施設で写した子どもたちの写真です。ありふれた、学校に通う子どもたちの写真ですが、とても気に入っています。

アフガニスタンでクーラーボックスを持って歩く男性の写真もあります。私は一日中、予防接種従事者による戸別訪問に同行しました。2002年当時はまだ警察のエスコートなしで大丈夫でしたが、その後、危険な状態となっていました。



Q:ロータリーとの協力がきっかけで思い通りの写真が撮れたことはありますか。

A:ナイジェリア北部のカノでの初日の朝、私は撮影に出かけましたが、1枚も撮らないまま、カメラを持っているという理由で逮捕されてしまいました。二人の大男に捕まってしまったのです。その時、制服姿の警官を見たので、私は駆け寄って「この人たちは本当に警官ですか？」と聞くと、「彼らは移民局関係の警官だ」と言われました。私は仕方なく、彼らと一緒に車に乗り込みました。

パスポートは没収され、ホテルから2日間、外出できませんでした。しかし、カノにあるロータリークラブ会長であるロータリアンが、私のために交渉してくれたのです。実際に何をされたのかは言いませんでしたが、パスポートを取り戻してくれました。

慈善団体 Cheshire Ethiopia が管理する施設で遊ぶポリオに罹患した子ども。アディスアベバ(エチオピア)、1997年。



保健センターで乾燥されるクーラーボックス。予防接種活動での主要な課題の一つは、コールドチェーンを維持することです。ワクチンの製造時から使用時まで適切な温度で保つ必要があります。デリー(インド)、2004年。
写真提供: Jean-Marc Giboux

Q:ポリオ根絶活動の写真を撮り始めたとき、このような問題に直面すると予想していましたか。

A:まったく予想していませんでした。最初に行ったのはエチオピアで、南部の部族地域を見に行きたかったのですが、雨季だったので真夜中に泥にはまってしまいました。予防接種の写真は撮れましたが、帰るのに3日ほどかかりました。このような問題に頻繁に直面しましたが、私が何とか現地にたどり着いたように、ポリオのワクチンも届けなければなりません。その難しさを目の当たりにしたのは貴重な体験でした。子どもの口に2滴のワクチンを落とすことは、そんなに難しいことではありません。そこにたどり着くのが難しいのです。